昭和26年3月12日第3種郵便物認可　平成24年6月1日発行（毎月1日発行）第62巻 第6号
ISSN 0913-9850

2012 Vol.62
6月号

MONTHLY かもつ

第3回 理事会を開催

燃焼灰と木材チップの往復輸送に向け試験輸送
株式会社北海道熱供給公社

公益社団法人 鉄道貨物協会
日本貨物鉄道株式会社

公益社団法人 鉄道貨物協会

我が国の貨物輸送の分野について、物資の安定・供給及び地球環境負荷（輸送量当りのCO_2排出量）の観点から、輸送方法の研究及び研究成果の普及啓発活動を行い、以って国民の生活に不可欠な物資の安定供給及び地球環境の保全に資することを目的とする。

Index

表2 土木・建築遺産

1 第3回 理事会を開催
2 本部委員会の審議内容
4 公益社団法人 鉄道貨物協会の事業報告及び決算報告
8 政府等関係機関への要望書
9 お国自慢　東京駅Now
10 「JRおおみや鉄道ふれあいフェア」開催

12 FREIGHT EYE

14 会員企業紹介　アサヒ飲料株式会社
15 協会ニュース／リフレッシュクイズ

16 モーダルシフト　株式会社北海道熱供給公社
20 貨物駅の仕事ガイド
フォークリフトの仕事　福岡貨物ターミナル駅
22 SPOTLIGHT　京葉臨海鉄道株式会社
24 トピックス
表3 「FREIGHT EYE」撮影メモ／JR貨物輸送概況

第3回 理事会を開催

◆日　時：平成24年4月25日［水］　◆場　所：如水会館（千代田区一ツ橋）

4月25日に公益社団法人鉄道貨物協会の第3回理事会を如水会館において開催しました。

理事会の冒頭、米本理事長から公益社団法人としての取組み状況等についての挨拶を行い、次に理事である日本貨物鉄道株式会社代表取締役社長の小林様から瓦礫輸送の取り組みや次期ダイヤ改正等について挨拶をいただきました。

その後議題に沿って、西山常務理事及び渡部常務理事から、平成23年度の事業報告・決算報告、役員の選任、政府機関等への要望書案等の説明が行われ、審議の結果、全員異義なく了承され、終了しました。

挨拶する小林社長

◆式次第

● 挨　　拶：公益社団法人 鉄道貨物協会
理事長 米本 亮一

日本貨物鉄道株式会社
代表取締役社長 小林 正明様

◆議　題

第1号議案…平成23年度事業報告及び決算報告について
第2号議案…役員等の選任及び退任について
第3号議案…平成23年度会員等の入会及び退会について
第4号議案…政府機関等への要望書（案）について
第5号議案…組織の変更について
第6号議案…規程の一部改正について
第7号議案…定時社員総会の開催について

本部委員会の審議内容

公益社団法人 鉄道貨物協会

第2回 輸送品質向上委員会 (H24.5.17)

前回の第1回委員会では、委員長･副委員長を再選し、また定員の22名も確認されたなかで、平成24年度の「輸送品質向上委員会」は盤石の体制でスタートしたところです。

第2回目の今月からは、年間テーマ「荷擦れ･荷崩れ対策としてのコンテナの内装及び養生材に関する調査研究と提案」と、サブテーマ「鉄道コンテナ輸送事故防止資材の効果検証調査」についての本格的な審議が始まりました。

【審議内容】

1. 年間テーマ「荷擦れ･荷崩れ対策としてのコンテナの内装及び養生材に関する調査研究と提案」

JRリサーチ後藤次長より、上記テーマの調査に際し、既存の文献を用いて、コンテナの内装及び養生材に関わる荷物事故の実態についての報告があり、続いて、先行研究分析からの課題抽出として、「内張り」「ラッシング」「防振コンテナ」「養生材」及び「段ボール箱」の5点を挙げ、これらの課題についての改善方策について、調査研究を進めていくこととしました。

また、調査を進めていく上で、荷主･利用運送事業者等の要望事項をとりまとめ、提案につなげていくためにヒアリング調査を行うことから、その調査内容が確認されました。

2. サブテーマ「鉄道コンテナ輸送事故防止資材の効果検証調査」

事故防止資材の効果検証調査の観点から、防振資材の技術説明ということで、(株)コイケ殿、(株)第一化学殿をお呼びし、実際に防振資材を使った実験を行い、その効果を体験しました。

3. その他

今後の予定

A. 本部スケジュール

「平成24年度定時社員総会」

平成24年5月28日(月)15時～　於:如水会館

【まとめ】

今委員会は年間テーマ、サブテーマ、日通総研短観報告、「政府等関係機関への要望書(案)」等議題が盛り沢山であったことから議論も白熱し、予定した時間を大幅に超過する委員会となりました。

事務局としては、今後とも充実した委員会活動を目指すなかで、次回の7月の委員会はコンテナ内装の仕様、養生材の導入事例、荷役時の工夫等について実際に見聞するため、持ち出しで行いたいと考えているところです。

第2回 利用促進委員会 (H24.5.16)

平成24年度第2回利用促進委員会では、サブテーマ『鉄道コンテナ輸送の利用促進に資する拠点およびインフラのあり方に関する調査研究』の一環で、羽生ORS(オフレールステーション)及び熊谷貨物ターミナル駅を訪問し、現況調査のための見学を実施いたしました。

現況調査終了後、熊谷貨物ターミナル駅の会議室をお借りして「第2回利用促進委員会」を開催し、年間テーマ『鉄道コンテナ輸送の利用促進のための意向調査の実施および利用促進策の提案』のアンケート調査票関係事項と、サブテーマ『鉄道コンテナ輸送の利用促進に資する拠点およびインフラのあり方に関する調査研究』に関するオフレール輸送の貨物取扱い施設についての審議を行いました。

【羽生オフレールステーション見学】

見学の受け入れ責任者である日本通運株式会社深谷支店坂入課長の説明によると、羽生ORSの物量は開設当社よりかなり増えており、発着ともほぼフル稼働している状況で、首都圏に近いことや、羽生インターにも近いことから、荷主企業の評価は高いとのことでした。

【熊谷貨物ターミナル駅見学】

熊谷貨物ターミナル駅の見学にあたっては、まず初めに会議室で加藤駅長から駅概況の説明をうけたのち、バスに乗車し、加藤駅長の説明をうけながら駅構内コンテナホームを中心に見学を行いました。その後、会議室に戻り質疑応答の場を設け、見学を終了い

たしました。

【委員会審議】

1. 年間テーマ『鉄道コンテナ輸送の利用促進のための意向調査の実施および利用促進策の提案』におけるアンケート調査項目の検討について

前回の委員会では、アンケート調査における設問等の詳細に関し委員よりご意見をいただいたところです。今回の委員会では、前回委員会での意見を反映したアンケート調査票（案）に基づき審議を行いました。設問項目（抜粋）は、以下のとおりです。

A. 貴事業所における、月間国内向け発送量および幹線部分における輸送モード別のおおよその割合等について
B. 10年前と比較しての鉄道コンテナ輸送の利用の増減について
C. 輸送モードの決定者について
D. 輸送モードの選択際に重視する項目について
E. Dで掲げた各項目に関して、トラック輸送および海上輸送との鉄道コンテナ輸送に対する評価について
F. 鉄道コンテナ輸送の利用拡大の予定について
G. 事業所あるいは他事業所の周辺における、鉄道コンテナの取扱施設があれば鉄道コンテナ輸送の利用が増加すると考えられる地域の市町村名について
H. 今後、どのような点が改善された場合、鉄道コンテナ輸送の利用を拡大されるか等の自由意見について

等の内容に関して一定の承認がされたところです。尚、アンケート調査の送付先につきましては、当協会21支部と連携をとったなかで選定しているところであります。

2. サブテーマ『鉄道コンテナ輸送の利用促進に資する拠点およびインフラのあり方に関する調査研究』におけるオフレール輸送の貨物取扱い施設の概要について

今回の委員会では、現状におけるコンテナ取扱い施設とはどのようなものがあるかについての資料に基づき審議を行いました。今後の調査研究の深度化を図るべく、一定の体系化された概論に関し委員間での情報の共有化を行なったところです。資料（抜粋）は、以下のとおりです。

A. オフレール輸送システムとは
B. オフレール輸送の貨物取扱施設について（自動車代行駅、コンテナ営業所、コンテナセンター、ORS、コンテナ通運デポ）

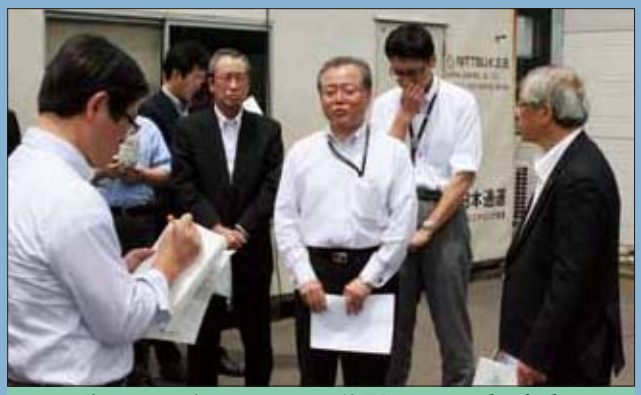
【まとめ】

今回の委員会は、委員会の中でORSについての多くの質問があったことから、「百聞は一見に如かず」とばかり、持ち出しの委員会とし、視察を兼ねて羽生ORSを訪問したところです。参加された各委員からは「今後の審議に大いに役立った。」と評判は上々でした。

また、そのあと現地で開催した委員会審議につきましては、初期段階はアンケート調査、ヒアリング調査や文献調査などの情報収集の期間として位置づけて、本格的な活動を始動したところです。

今後、同調査につきましては、関係先のご協力をいただくなか、精力的に推進してまいります。

羽生ORS入口より撮影


羽生ORSにて坂入課長からの説明を聞き入る委員会委員

バス車内にて構内業務の説明をされる加藤駅長

熊谷貨物ターミナル駅にて加藤駅長からの説明を聞く

平成23年度（平成23年11月1日から平成24年3月31日まで）

公益社団法人 鉄道貨物協会の事業報告及び決算報告

当協会は、鉄道貨物輸送の果たすべき役割を認識し、「本部委員会」による調査研究活動、「エコレールマーク」の普及と拡大、「貨物時刻表」による啓蒙活動、地域経済に沿った支部活動に努め、「国民の生活に不可欠な物資の安定供給」と「地球環境の保全の実現」に寄与してまいりました。主な活動は、以下のとおりです。

公益社団法人 鉄道貨物協会

本部委員会活動の充実

国民生活を支える社会的インフラとしての鉄道貨物輸送は、近年の環境意識の高まりによるCO_2排出量削減要請や、少子高齢化に伴うトラックドライバー不足対策の担い手として、更には震災時等における大量安定供給の観点からも大いに注目されているところです。

本部委員会は、昨年度に引き続き「利用促進委員会」、「輸送品質向上委員会」の2委員会構成とし、活発な委員会活動を推進してまいりました。

委員会審議テーマについては、荷主企業会員の声を反映させ引き続き4テーマを選定し委員会活動を進めてまいりました。

活動内容としては、情報システムの高度化に伴う鉄道貨物輸送に関する情報提供の実現性や、コンテナの内部構造の課題と対策に関する調査研究に取り組んでまいりました。

平成23年度の各委員会審議内容は、以下のとおりです。

平成24年3月に開催された合同委員会の様子

●「利用促進委員会」

■ 審議テーマ

A. メインテーマ

『情報システムの高度化による社会インフラとして災害に強い輸送体制に関する調査研究と提案』

B. サブテーマ

『12フィートコンテナの増トンの可能性と課題の検討』

● 審議内容

A. メインテーマ『情報システムの高度化による社会インフラとして災害に強い輸送体制に関する調査研究と提案』

本委員会では、鉄道貨物輸送に関してどのような情報が入手できるのか、また荷主企業がどのような情報を望んでいるのか、加えてその情報がどのように提供できるのかについての調査研究と提案を行うことを目的に活動してまいりました。

鉄道事業者の情報システムに関する整理を行うべくJR貨物I-TEMセンターにおいて委員会を開催し、同センターの見学と概要説明を受けました。また、利用運送事業者の貨物情報システムの現状把握を目的に、日本通運とヤマト運輸の2社の情報システムについて、勉強会を実施し、その概要把握を行いました。更に、鉄道貨物情報システムに係わる様々な事例を収集することを目的に、荷主企業並びに利用運送事業者へのヒアリング調査を行い、収集したヒアリング結果を取りまとめ、鉄道貨物情報に対する課題、要望等の整理を行い、具体的提案に向けての審議を行ってまいりました。

<審議経過>

1. メインテーマの調査･研究の概要説明（調査目的、調査方法）
2. 鉄道事業者の情報システムに関する整理

3. 利用運送事業者の情報システムに関する整理
4. 荷主企業における情報システムに対するニーズの把握
5. 望ましい情報システムの在り方およびフィージビリティーの検討
6. ヒアリング結果の報告
7. まとめ

B. サブテーマ『12フィートコンテナの増トンの可能性と課題の検討』

重量物を出荷する一部の荷主企業等から、輸送効率の向上のため12フィートコンテナの総重量の緩和を求める声が聞かれるようになり、本委員会では、その可能性について検討し、調査を行うこととしました。

このため、荷主企業・鉄道事業者・利用運送事業者別のヒアリング項目を検討し、10社に対しヒアリングを行い、収集した内容の取りまとめ、現状分析を行なうなかで12フィートコンテナの総重量緩和の可能性の検討に向けての審議を進めてまいりました。

●「輸送品質向上委員会」

■ 審議テーマ

A. メインテーマ

『コンテナの臭気対策と機能向上に関する調査研究と提案』

B. サブテーマ

『コンテナ輸送途上における品質管理面の課題と検証』

● 審議内容

A. メインテーマ『コンテナの臭気対策と機能向上に関する調査研究と提案』

前年度に引き続きコンテナの臭気対策の実効性ある運用・管理の方策と、コンテナの内部構造の課題と対策をメインテーマに掲げ調査・研究を行ってまいりました。

先ずメインテーマの「コンテナの臭気対策」に関しては、①荷票欄の利用、②チェックリストの活用、③コンテナクリーン運動の実施、④IT-FRENSでの履歴確認の4つが対策として上がり、また、荷主企業からは、臭気の無いコンテナを用意するのが前提ではないかという意見が多く聞かれました。

次に、「コンテナの機能向上に関する調査・研究」に関してアンケート調査とヒアリング調査を行った結果、汎用的に用いられている鉄道用コンテナにおいては、「荷擦れ・荷崩れ」が最も不便を感じており、以下「濡損」、「臭気」、「温度変化」の順で課題のあることがわかりました。

現在、段ボール・紙袋自体が商品として扱われることが増え、荷主企業・利用運送事業者へのヒアリング調査においては、特に「荷擦れ」対策として、養生機材の充実やラッシング機材の強化を求める声が多く聞かれたところです。

このように、アンケート調査やヒアリング調査の内容分析をするなかで、課題、要望の整理を行い、具体的提案に向けての審議を進めてまいりました。

<審議経過>

1. メインテーマの調査・研究の概要説明（調査目的、調査方法）
2. 「コンテナの機能向上に関する調査・研究」のアンケート調査
3. 「コンテナの機能向上に関する調査・研究」のヒアリング調査
4. アンケート調査並びにヒアリング調査の公表
5. 輸送品質向上のための技術面での課題整理と実現性の検討
6. まとめ

B. サブテーマ『コンテナ輸送途上における品質管理面の課題と検証』

物資を安定的に供給するためには、輸送中に発生する振動・衝撃等を継続して把握する必要があることから、平成21年度からのテーマである「コンテナ輸送途上における品質管理面の課題と検証」を引き続きサブテーマとして取り上げました。

今年度は輸送中に発生する振動・衝撃等を正確に把握するため、日本海縦貫線を利用した徳島ＯＲＳ発～札幌貨物ターミナル駅間を利用するコンテナに振動計測器を設置して、輸送及び荷役中に発生する振動・衝撃等のデータ収集を行いました。

調査では、トラック輸送部分で共振が確認されたものの、ストレッチフィルムでの梱包が功を奏し荷擦れは確認されませんでした。

●「物流施設の視察及び企業施設の見学」

11月以降実施した物流施設の視察及び企業施設の見学は、以下のとおりです。

● 3月14日

「利用促進委員会」と「輸送品質向上委員会」合同で、企業施設見学会を実施すべく、福島臨海鉄道小名浜駅と茨城県ひたちなか市の安全運転中央研修所を訪問しました。

なお、平成22年度本部委員会報告書を鉄道貨物輸送の認知度向上と利用促進を図る目的で、広く全国の国公立等の図書館及び各都道府県、関係市町村に対し、計1,249部を寄贈しました。

再開した福島臨海鉄道の小名浜駅を見学

安全運転中央研修所の最上階展望室での見学の様子

「エコレールマーク」の普及

多くの企業が平成23年3月に発生した東日本大震災の影響を受け、緊急避難的な物流ルートの確保に努める中、「エコレールマーク」事業の普及活動は後退を余儀なくされました。しかしながら、後半期緩やかな復興に伴い、企業の環境に対する取り組みも徐々に回復傾向に転じました。本部では、支部と一体となって各地域における環境展等に参加、特に、9月には関西地区の「ネキスポ関西2011」に初めて参加し、西日本地域における普及活動を強化しました。

12月には、全国規模の環境イベント「エコプロダクツ2011」に出展し、パンフレットの配布及び「エコレールマーク」のパズルや着ぐるみ「エコレールマークちゃん」等を活用して認知度向上に努めてきました。また、環境展イベント会場での接触を経て、着ぐるみキャラクターが映画の撮影協力をしました。

商品認定136品目、取組企業認定75社、協賛企業15社計226件となりました。(3月末現在)

(1) 商品マーク表示の拡大

「エコレールマーク」が一般消費者への認知度を高めることを主眼として、商品自体へのマーク表示が重要課題となっています。今期は大手日用品メーカー等に対して商品へのマーク表示の要請活動を強力に推進しました。

(2) IT媒体の活用

11月1日公益法人移行を機に当協会ホームページのリニューアルを実施しました。これには、「エコレールマーク」事業の紹介コーナーも合わせて改訂し、マーク事業が物流の見える化を目指し、一般消費者と企業が一体となって進める環境負荷低減に関する活動であることを分かり易く説明する内容に変更しました。

(3) 広告宣伝活動の推進

- 環境問題の重要性の観点から、児童・学生向けにエコレールマーク制度を理解してもらうための「新パンフレット」の作成に着手しました。
- 全国主要都市電車窓上広告実施(1月)

N-EXPO関西2011に出展した協会ブース

東京ビッグサイトで開催された「エコプロダクツ2011」に出展

JR旅客6社管内窓上広告一斉実施
(札幌、仙台、東京、名古屋、大阪、博多)

- マスメディアの活用
  映画製作会社に対する着ぐるみキャラクターによる映画撮影協力実施(2月)

(4) 広報商品の有効な活用

- エコバック、ブランケット、「エコレールマーク」入り文房具等を作成し、各種イベントにおける認知度向上活動に活用しました。

支部活動の活性化と充実

地域経済において鉄道貨物輸送の果たすべき役割について調査研究活動を行っている支部活動については、本部委員会と連携した「利用促進会議」、「企業見学会」、「エコレールマーク」普及活動、一般に公開を行っている「講演会」など、地域社会に根差した地道な事業運営を行ってきました。

(1) 地域に即した「利用促進会議」の活性化と充実

各支部の「利用促進会議」の開催については、平成23年度事業計画の最重点施策の一つとして、この「利用促進会議」を各地域における鉄道貨物輸送の利用促進や輸送品質向上に係わる身近な課題を検討する場として位置づけ、「利用促進会議」が各支部において開催されるよう、本部としても積極的な支援を行ってきました。

各支部で開催される利用促進会議

(2) 「エコレールマーク」の普及に向けた取組

「エコレールマーク」の全国展開を図るため、本部・支部が一体となってマークの認知度向上及び普及に向けた活動を強化してきました。

① アリオ札幌店展示会(11月)
② 京都環境フェスティバルへ展示(12月)
③ JR貨物北九州貨物ターミナル駅開業10周年記念祭へ展示(3月)

(3) 講演会、セミナーの開催

支部において、鉄道貨物輸送の環境特性を一般社会に周知することを目的に、地球温暖化問題や地域経済の動向に関する演題等広範囲にわたり有識者による講演会やセミナーを開催しました。

① 12月5日(月)広島支部
　演題：社員からみた理想の経営者とは
② 12月15日(木)広島支部
　演題：ちょこっと運動のすすめ
③ 1月13日(金)北海道支部
　演題：「事故を起こす人、起こさない人」～事故防止のためのパーソナリティ分析について
④ 1月19日(木)東京支部
　演題：交通産業における規制改革
⑤ 2月16日(木)秋田支部
　演題：防災エンスショー
⑥ 2月20日(月)米子支部

演題：「底なし」日本経済大不況～日本経済の本当の姿と大不況の出口を探る～

⑦ 2月21日（火）名古屋支部
演題：いのちと絆

⑧ 2月23日（木）仙台支部
演題：東日本大震災における通信網の状況と今後の対策

⑨ 2月23日（木）広島支部
演題：お刺身の歴史

⑩ 2月24日（金）青森支部
演題：A. 愛ディア&スマイルコミュニケーション
B. 福島原発からの放射性物質

⑪ 2月28日（火）水戸支部
演題：茨城県の物流戦略について

支部主催の講演会

事業活動の一環で開催される貨物セミナー

（4）物流施設及び企業見学会の開催

会員等各社の今後の業務に役立てていただくとともに会員等相互の情報交換を図りました。

① 12月7日（月）四国支部
訪問先：日本食研KO宮殿工場見学
焼却灰の試験輸送を行っている同工場施設を見学

② 12月22日（木）広島支部
訪問先：（株）ダイセル 大竹工場

会誌「マンスリーかもつ」の発行

会員等相互の情報交換の場を提供してきました。

（1）公益法人創立記念号
・内閣府公益認定等委員会での審議経過
・鉄道貨物協会の新しい定款の紹介

（2）会員等企業の紹介
・中村自工株式会社 ・松原産業株式会社
・全国農業協同組合連合会宮城県本部
・株式会社トミーテック ・株式会社オー･エル･エス等

（3）本部委員会の報告及び本部・支部の活動報告
・平成23年度事業活動報告
・支部利用促進会議活動状況等

貨物時刻表の発行

貨物時刻表は、協会創立60周年記念号（2011年度版）として内容の充実を図るとともに、運転席からの映像を収録したDVDを付録に付け20,500部発行し、ほぼ完売となりました。また、公益法人移行に伴い、2012年版貨物時刻表の企画編集において、鉄道貨物輸送に関する調査研究事例を紹介する誌面を大幅に増加させました。

<かもつフォトギャラリー開設>

貨物時刻表のフォトギャラリーへの関心が強くなる中、当協会ホームページ上に貨物時刻表ファン及び一般の方々向けにメンバー登録制の「かもつフォトギャラリー」を開設しました。

会員等増加運動の推進

本部･支部一体となって、荷主企業に限らず一般社会への周知活動を強化し、鉄道貨物輸送の応援団になっていただくという位置づけから、環境イベントや関係各位のご紹介などを通じて多方面への働きかけによる法人会員等の増加運動、また貨物時刻表の読者の方々へのご案内を中心とした個人会員の増加運動に取り組んできました。

本部主催会議

(1) 第1回理事会	11/21（月）	如水会館
(2) 創立社員総会	11/29（火）	如水会館
(3) 幹事長・事務局長会議	3/12（月）	如水会館
(4) 本部委員会		
・利用促進委員会	11/16・12/ 7・1/11・2/15	協会本部
・輸送品質向上委員会	11/18・1/16・2/17	協会本部
・本部合同委員会	3/5	JR貨物本社
(5) エコレールマーク運営・審査委員会	3/2	協会本部
(6) 会誌「マンスリーかもつ」編集会議	毎月１回	協会本部

公益法人移行で開催された創立社員総会

公益法人移行後の第一回目理事会を開催

政府等関係機関への要望書

公益社団法人 鉄道貨物協会

私ども公益社団法人 鉄道貨物協会は、国民の生活に不可欠な物資をより安定的に供給し、かつ環境負荷を低減させるため、貨物の輸送方法について調査及び研究を行い、その成果の普及啓発活動を通じて、国民の生活に不可欠な物資の安定供給と地球環境の保全を実現する事業を目的として活動しております。

ここに協会会員の総意として、下記について要望いたしますので、宜しくお取り計らい願います。

記

昨年は東日本大震災に見舞われ、東北への交通網が大きく寸断されましたが、関東から被災地に石油類を運ぶため、日本海縦貫線を経由して「石油専用列車」を運行し、鉄道貨物輸送が大いに注目されました。こうしたことにより鉄道貨物輸送は、国民の生活に不可欠な物資の安定供給の観点からも、社会的インフラである鉄道輸送の存立の意義とその役割を新たにしたところです。

また、地球環境問題への対応については、官民挙げての温暖化防止に向けた取組みへの強化が求められており、環境負荷の面で優れた輸送モードである鉄道貨物輸送へのモーダルシフトの必要性が一段と高まってきています。

つきましては、以下の事項について、特段のご支援ご配慮をお願い致します。

東日本大震災の被災地域への支援

東日本大震災で発生した2000万トンを超えるともいわれる大量の「がれき」処理は、被災地の復旧・復興にあたっての最優先課題です。しかしながら、この全てを地元だけでは処理し切れないため、現在、全国の自治体でその受入れ方が検討されているところです。

一日も早い復旧・復興を図るためには、安全で効率的な輸送方式である鉄道コンテナによる「がれき」輸送が不可欠と考えます。ついては、出す側・受ける側双方の自治体での体制が速やかに構築されるよう願っております。

輸送ニーズに応えた鉄道貨物輸送を支えるインフラの整備

モーダルシフトをはじめ、鉄道貨物輸送に対する経済・社会的な要請に応える上で、安全・正確・迅速な輸送を支えるインフラの整備は欠かせません。輸送ニーズが高く、輸送力が逼迫している区間の輸送力の増強（有効時間帯の良質のダイヤ確保、待避線等の整備）、及び鉄道貨物駅の着発線荷役（E&S）方式の拡大等、駅施設の機能・利便性向上のための公的支援の継続・拡充について、特段のご配慮をお願い致します。

また昨今、荷主企業の物流へのニーズの多様化を受け、鉄道貨物輸送においても、多様なコンテナへの対応が求められています。トラックからのシフトの容易な31フィート大型高規格コンテナの整備や荷役設備の整備、また国際複合一貫輸送に対応するISO国際海上コンテナ利用のためのインフラ整備について、特段のご支援をお願い致します。

加えて最近では、人身事故・動物衝突等による輸送障害が多発し、鉄道の安定輸送に対する信頼を損ねていることから、防御設備等について、特段のご配慮をお願い致します。

モーダルシフトに関するソフト面での具体的支援策の創設

これまで、温室効果ガス削減という観点から、環境に優しい鉄道貨物輸送を中心としたモーダルシフトへの取り組みが続けられてきたところですが、その取り組みは依然として十分に定着したとは言い難い状況にあります。また、京都議定書は2012年末に期限切れを迎え、我が国は自主基準へ移行することを決定していることから、鉄道貨物輸送へのモーダルシフトをより一層強力に推進して行く必要があります。

日本国内の鉄道利用率は、同じ島国であるイギリスの10%と比較しても、圧倒的に低レベルであり、鉄道貨物輸送の役割を発揮しているとは言い難い状況です。しかしながら、少子高齢化によるドライバー不足、環境対策の進展等により、鉄道貨物輸送への期待はますます高まって来ており、国策としてモーダルシフトへの取り組みに対し、インセンティブ制度等ソフト面での支援措置を是非お願い致します。

鉄道貨物輸送と国際物流の関係強化

今日、生産活動のみならず、物流分野においても、グローバル化の進展には目を見張るものがあります。こうした物流マーケットの地殻変動を受けて、鉄道貨物輸送はこの分野においても役割を果たして行く事が期待されております。

この役割を果たすべく、コンテナ船、トレーラー、海外鉄道等と国内鉄道を結びつける目的で開発され、幅広い活用が期待される「フラットラックコンテナ」がその一つとしてあげられますが、このようなシームレスな国際物流への民間の取り組みをさらに強化できるよう、格段のご支援をお願い致します。

整備新幹線延伸に伴うネットワークの維持と受損の回避

整備新幹線の開業に伴い、並行在来線が旅客鉄道会社から経営分離される際、将来にわたって鉄道貨物輸送のネットワークが寸断されることなく、かつ安定的に輸送を行えること、また、荷主企業、利用運送事業者及び鉄道貨物事業者に受損が生じないようにすることが必要不可欠です。そのため、万全の措置を講じていただきたくお願い致します。

エコレールマーク事業の推進

エコレールマーク事業は、環境に優しい鉄道貨物輸送を活用し、地球環境問題に積極的に取り組んでいる企業やその商品を対象に、認定企業の公表または商品表示によって、消費者が認定企業の環境対策を意識し、企業は消費者の意識変化に対応することを通じて、消費者、企業が一体となって鉄道貨物輸送による環境負荷低減のための取組を進めるよう促すことを目的としています。

今後とも環境負荷低減に取り組む企業や商品を増やし、同事業を通じ、関係企業と消費者とのパートナーシップを築くことが極めて重要なことから、同マークの普及啓発に、特段のご支援とご配慮をお願い致します。

また、エコレールマーク認定企業、認定商品に対する具体的な支援策の構築をお願い致します。

以上

お国自慢

国の重要文化財 赤レンガ駅舎

東京駅Now

国の重要文化財であり赤レンガ駅舎で親しまれている東京駅丸の内駅舎は、2012年秋に創建時の姿に生まれ変わります。

戦争で焼失しその後は寄棟形状の2階建て駅舎に復興しましたが、現存する外壁を保存しドーム状屋根3階建ての1914年当時の駅舎に戻す復原工事を行っています。

工事により休館していた東京ステーションホテルも、大正時代から文豪が愛した格調と伝統はそのままに、現代の機能性を備えた先進的なホテルとしてオープンします。

また丸の内駅舎復原工事完成にあわせて東京駅改札内1階中央通路に「セントラルストリート」が誕生。バラエティ豊かな店舗がオープンし、新しい情報発信基地として更なる利便性が見込まれます。

担当：東京支部（笹屋繭子）

丸の内のビジネス街に囲まれた東京駅丸の内駅舎

親しみのあるドーム状屋根も復興工事の進む東京駅

＜トピックス＞ 新名所紹介

駅リニューアルを前に4月14日（土）東京駅一番街の八重洲地下中央口に、日本を代表するお菓子メーカーのアンテナショップ「東京おかしランド」がオープンしました。

エコレールマーク認定企業の江崎グリコ株式会社の「ぐりこ・やキッチン」では、作りたてのお菓子や、ショップ限定・地域限定商品を販売。

同じく認定企業のカルビー株式会社の「カルビープラス」では、認定商品のカルビー「じゃがりこ」をフライドポテト感覚の新食感で楽しむ「ポテりこ」などを販売中。ここだけの「おかし」が食べた～い人達で連日大行列が出来ています。

作りたてのお菓子や限定商品を販売する「ぐりこ・や キッチン」

新感覚の「ポテりこ」が人気のカルビープラス

協力：東京ステーション開発株式会社

「JRおおみや鉄道ふれあいフェア」開催

当協会東京支部とJR貨物関東支社が共同でイベントに参加

子供達に大人気のエコレールマークちゃん

ジグソーパズルにチャレンジする子供達

5月26日(土)にJR東日本大宮総合車両センター主催、JR貨物大宮車両所共催、さいたま市の後援で「JRおおみや鉄道ふれあいフェア」が開催されました。

開催地の大宮は、鉄道施設が多く「鉄道の町」として栄えてきた歴史がありますが、5年前には鉄道博物館がオープンし、ますますその色合いが濃くなっています。

今年は東北・上越新幹線大宮開業30周年と重なった記念の年ということもあり、当日の天候にも恵まれ、22,300人もの多くの鉄道ファンや親子連れが訪れました。

今回のイベントの催し物としてJR東日本大宮総合車両センターでは、車両試乗・鉄道体験コーナーやミニSL・ミニ新幹線の運転及び鉄道模型の運転などを行いました。

JR貨物大宮車両所ではEF65-535機関車展示や、EF65-1091機関車の車両運転台のお客様へ公開を行いました。また大型クレーンを用いEF65-2092機関車の車両移動の実演を行いました。

毎年恒例となっている廃車車両の部品販売やナンバープレートなどの部品オークションは、詰め掛けた多くの鉄道ファンに喜ばれました。

他にも地元のJ1サッカーチームである大宮アルディージャも出店し、イベントに花を添えていました。

当協会も19Dコンテナでエコレールマーク商品を展示するブースを作り、イベントに参加しました。

来場者にはパンフレットをお配りし、お子様にはジグソーパズルにチャレンジして頂き、楽しみながらエコレールマークを覚えて頂きました。

同時に大勢の貨物鉄道のファンが集まる機会の活用として、貨物時刻表の販売も行いました。

エコレールマークちゃんの着ぐるみも大活躍し、大賑わいのうちに終了した今回のイベントで、更に多くの方に鉄道貨物輸送の重要性を理解して頂く良い機会となりました。

会場に設置されたエコレールマークのブースで熱心に話を聞く来場者

大盛況だったいろいろな催しもの

アサヒ飲料株式会社

お客様に「安全・安心でおいしい飲料」をお届けします

アサヒ飲料株式会社は「安全・安心でおいしい飲料」を通じて、「元気」「楽しさ」「健康」をお届けし、お客様の豊かな食生活に貢献する企業を目指しております。飲料分野で新たなチャレンジを続け、常に高い品質・安全性を維持することはもとより、地域と地球の環境に配慮し、コンプライアンスを実践することで、社会から信頼され求められる企業として、その責任と役割を果たしていきます。

商品ラインアップ

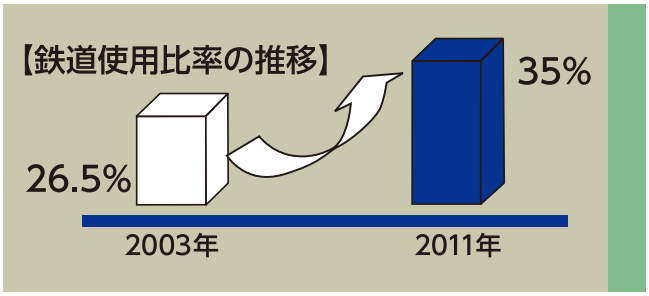
アサヒ飲料株式会社は“お客様の求めるものを予期せぬカタチで”をテーマに、お客様のさまざまな生活シーンに笑顔をもたらす商品をお届けしています。

アサヒ飲料株式会社は“朝専用缶コーヒー ワンダモーニングショット”でおなじみの缶コーヒー「ワンダ」、129年のロングセラーブランド「三ツ矢サイダー」、ブレンド茶のパイオニア「十六茶」をはじめ、今年発売30年目を迎える「おいしい水」、果汁飲料のパイオニア「バヤリース」、日本生まれのロングセラー炭酸水「ウィルキンソン」、ノンカフェインでやさしい「六条麦茶」のほか、パリの美食クリエーターからの新提案「フォション」、エナジードリンク「ドデカミン」などバラエティーに富んだブランドを展開しています。

エコ活動

アサヒ飲料株式会社明石工場と富士山工場では自社工場内でペットボトルを成型する内製化によって、ボトル輸送にともなうトラック輸送台数を削減し、省エネルギーと二酸化炭素排出量の抑制を実現しています。またペットボトルについては、環境負荷の低減と使いやすさの向上を目指し、2011年に新型2Lペットボトル「らくエコボトル」を独自に開発しました。

従来と同等の強度を確保しつつ、重量をおよそ25～28%削減、持ちやすさや注ぎやすさ、飲用後のつぶしやすさにも配慮し利便性を高めました。このボトルの採用によって、製造する樹脂を減量し、年間約2,900トンの二酸化炭素排出量を削減することができます。



アサヒ飲料株式会社は積極的な「モーダルシフト」の推進により、鉄道の使用比率は2011年時点で35%（2003年時点では26.5%）に上昇し、約17,265トンの二酸化炭素排出量削減を実現しました。この量は東京ドーム約8個分に相当します。

また、2012年3月末より「新たな取り組み」を開始しています。アサヒグループの荷物を混載することで物量を確保、関東・関西間エリアで定期往復輸送を実施し、片荷運行を解消しています。更なる輸送効率化を図って参ります。

アサヒ飲料株式会社は商品開発、生産、物流、販売など多くの工程で、環境保全に配慮した行動を通じ、今後も環境負荷低減を目指して取り組んで参ります。

協会ニュース

平成24年5～7月分実施項目

本　部

5月　8日(火)／会誌編集会議(協会会議室)
5月16日(水)／第2回利用促進委員会(羽生･熊谷)
5月17日(木)／第2回輸送品質向上委員会(協会会議室)
5月28日(月)／定時社員総会(如水会館)
※7月12～13日／全国事務局会議

支　部

講演会のご案内

各支部で講演会を開催します。参加ご希望の方は下記支部までお問い合わせください。

●四国支部　平成24年6月5日（火）
演題・疲れきっている心と身体のコリ退治･ストレス解消等
講師・木村 友泉 氏

●北陸支部　平成24年6月12日（火）
演題・すばらしい経営者から学んだ人づかいのコツ
講師・理事長 米本 亮一

●盛岡支部　平成24年6月13日（水）
演題・未定
講師・未定

●名古屋支部　平成24年6月14日（木）
演題・政治の混迷と日本経済の展望
講師・岸 博幸 氏

●青森支部　平成24年6月14日（木）
演題・薬の上手な使い方
講師・中村 郁子 氏

●広島支部　平成24年6月14日（木）
演題・プロとしての精神論
講師・北別府 学 氏

●水戸支部　平成24年6月15日（金）
演題・水戸黄門に学ぶ～人生の教訓
講師・但野 正弘 氏

●静岡支部　平成24年6月21日（木）
演題・南海トラフ巨大地震における津波予測
講師・川崎 浩司 氏

●岡山支部　平成24年6月22日（金）
演題・最近の電力事情について
講師・重藤 隆文 氏

※詳細はホームページを参照して下さい。

MONTHLY かもつ・6月号　第62巻・第6号　2012年（平成24年）6月1日発行（毎月1日発行）

発行／公益社団法人 鉄道貨物協会
〒101-0048 東京都千代田区神田司町2-8-4 吹田屋ビル4階
☎03-5256-0577　FAX03-5256-9220
鉄道貨物協会インターネットホームページアドレス http://www.rfa.or.jp

編集／公益社団法人 鉄道貨物協会・日本貨物鉄道株式会社
（株）ジェイアール貨物・リサーチセンター
印刷／（株）恒陽社印刷所活版事業部

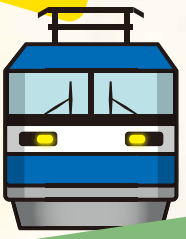
エコレールマークは、エコ輸送で地球環境に貢献する企業や商品を認定するマークです。

「物流の見える化」推進で
エコ社会の実現！

企業

エコに対する取り組みとして
鉄道輸送に転換し、エコレールマークを取得する。

モーダルシフト



鉄道輸送

環境負荷の少ない鉄道輸送で
「エコ物流」を実現

輸送

エコレールマーク

購入

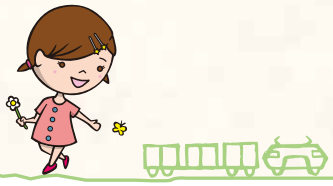
消費者

エコレールマーク商品を選ぶことで
CO_2排出量の削減に貢献。

販売

店舗

エコレールマーク商品を置くことで
エコ推進に協賛。



エコレールマークの認定基準

取組企業認定

500km以上の陸上貨物輸送の内、鉄道利用で、
数量または数量×距離の15%以上。

もしくは、年間鉄道利用数量1万5千トン以上または
数量×距離1,500万トンキロ以上。

商品認定

500km以上の陸上貨物輸送の内、鉄道利用で、
数量または数量×距離の30%以上。

▶▶▶ 詳細は協会ホームページをご覧ください。 http://www.rfa.or.jp/

エコレールマークの使用例

企業イメージ用

環境報告書／ウェブサイト／
ポスター／新聞広告／カタログ
（企業の取組の説明に係る箇所）等

個別商品用

商品／段ボール／カタログ
（商品の告知、説明に係る箇所）／
新聞広告 等

国土交通省 鉄道局貨物鉄道政策室
TEL 03-5253-8111 内線 40254 http://www.mlit.go.jp/tetudo/

公益社団法人 鉄道貨物協会 エコレールマーク事務局
TEL 03-5256-0580 http://www.rfa.or.jp/

MONTHLY かもつ
平成24年6月1日発行（毎月1回1日発行）昭和26年3月12日 第三種郵便物認可
MONTHLY かもつ 6月号 第62巻 第6号 頒価420円（本体価格400円）送料別 会員の購読料は年会費に含まれます）
ISSN 0913-9850